

# Blitzen Times

February.2026

## Vol.100



### Race Report

01.18 ざおうさまCUP  
02.08 シクロクロス東京

# 沢田、26年初戦で表彰台発進

Astemo宇都宮ブリツェンの2026シーズン初戦となった「ざおうさまCUP」で、沢田時が3位表彰台上がった。体調不良からの復調を印象つける走り、チームの新シーズンに弾みをつける内容となった。

Astemo 宇都宮ブリツェンの2026年シーズンは、宮城県蔵王町総合運動公園の特設コースで開催されたシクロクロスレース「蔵王町制70周年記念第4戦ざおうさまCUP」からスタートした。2・7キロの周回コースを9周する全長24・3キロで実施され、エリートカテゴリーには沢田時が出場した。

レース当日は晴天だったが、コース上は霜が溶けてぬかるんだ区間が多く、細かなミスがタイムロスに直結する難しいコンディション。沢田は「こを走るのには3年ぶり」と語り、直線で踏み切れる区間が少ないことを踏まえてタイヤ選択に時間をかけた。

全日本選手権後には体調を崩し体重が4キロ落ちたものの、「走った感じは良く、しっかり踏めそう」と手応えをつかみ、「チームにとってもいい弾みとなるように、2026年のいいスタートを切りたい」とレースに臨んだ。

全日本王者織田聖（弱虫）へタルサイクリングチームは欠場だったが、副島達海（TEAMWORKS）、松本一成（M.VOTA）、元ブリツェンの小坂光（Utsunomiya Lux）ら国内トップが顔をそろえ、69名がスタートラインに並んだ。コース幅が狭く後方ではブレーキを強いられるなか、沢田は前方ポジションを確保し、2周目には沢田、松本、副島、野暮然新による先頭バックが形成される。

3周目に松本と副島がやや抜け出し、その後ろに野

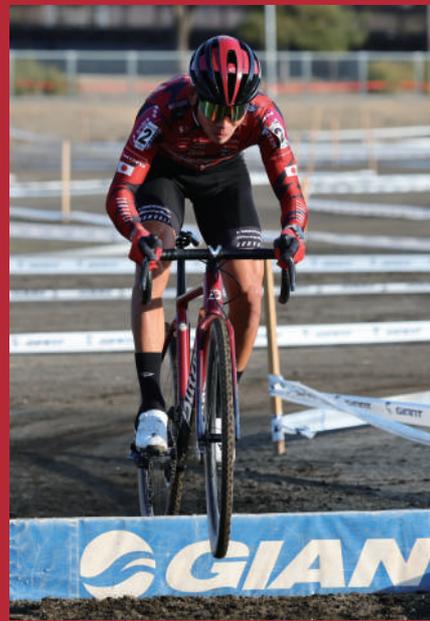
暮、沢田という並びに。沢田は約15秒差から単独で先頭を追い続け、中盤は野暮との3番手争いを展開したが、先頭とのタイム差は最大27秒まで広がる苦しい展開となった。その後も差は少しずつ広がり、レースは先頭2人の優勝争いと2位を懸けたバトルという構図で進んだ。

7周目には松本が副島に対してわずかにリードを奪い、8周目にその差は10秒へ。勝負は両者の一騎打ちとなる一方で、沢田は7周目まで続いた野暮との接戦から8周目に抜け出し、単独3番手に浮上した。

ラスト9周目、松本が独走態勢を維持してトップでフィニッシュし、副島が2位で続く。沢田も単独3番手でフィニッシュラインを通過し、2026年初戦を表彰台で終えた。出走69名に対して完走者は23名にとどまり、コンディションの厳しさを物語るレースとなった。

レース後、沢田は「前半のコーナーでリズムを掴めず、序盤で離れてしまった。もったいないレースだった」と自己評価する一方、「全日本後に大幅に組み替えたトレーニングは、まだ1か月だが内容として手応えを感じている」と前向きにコメント。

「優勝には届かず申し訳ない結果だったが、3位という数字以上にポジティブな内容だった」と語り、次戦シクロクロス東京、そしてマウンテンバイク、グラベル、ロードレースへと続く2026年の戦いに向け、課題と収穫を同時に得た一戦となった。



# 雪のお台場で意地の3位・沢田

東京・お台場海浜公園で行われた「CYCLOCROSS TOKYO 2026」でAstemo宇都宮ブリッツェンの沢田時が3位表彰台に上がった。雪が積もる過酷なコンディションのなか、今季シクロクロス最終戦で意地の走りを見せた。

Astemo宇都宮ブリッツェンのシクロクロスシーズン最終戦は、東京都立お台場海浜公園特設コースで開催された「弱虫ヘタル×Champion System CYCLOCROSS TOKYO 2026」(C/CX)シリーズ最終戦として多くの観客を集めるビッグイベントだ。

例年は砂浜セクションが象徴的だが、2026年大会は雪が積もる異例のコンディションとなり、砂と雪、ぬかるみが混在する路面に、バイクコントロールとライン選択が勝敗を左右するテクニカルなレースとなり、全日本選手権後の取り組みを試す格好の舞台となった。

レースは雪が舞うなかでスタートし、砂区間では乗車とランの切り替えが連続、重い路面では純粹なパワーが問われた。沢田は序盤から前方バックに加わり、テクニカルセクションで安定した走りを披露。一時はポジションを落としながらも、中盤以降にじわじわと順位を取り戻していった。

周回を重ねるごとに選手たちの足が削られるなか、大きなミスなく走り切る冷静さも求められるレースとなり、終盤には上位数名によるサバイバルの様相に。沢田は危なげないライン取りで転倒リスクを抑え、セクションごとにタイムロスを最小限に抑える走りを貫き、最終周回で表彰台圏内を確保した。

JCFリザルトではエリート男子3位、トップから1分29秒差でフィニッシュ。出走36名に対して同一周

回完走7名という過酷なレースで掴んだ表彰台は、今季シクロクロスで積み上げてきた成果を示すものとなった。

全日本選手権 蔵王さまCUPに続く3位表彰台は、沢田とチームにとって大きな財産となり、「この経験をマウンテンバイクやロードレースにもつなげていきたい」と次のステージを見据える。雪と砂、そして多くの観客に包まれたお台場での最終戦は、2026年シーズンの飛躍を期待させる締めくくりとなった。





# 2026.4.4(SAT)/4.5(SUN) ホームレース開催決定!!

2026年4月4日(土) JBCF Jプロツアー 第3回 NTT東日本 真岡芳賀ロードレース  
2026年4月5日(日) JBCF Jクリテリウムツアー 第3回 NTT東日本 宇都宮清原クリテリウム



私たちはAstemo宇都宮ブリッツェンを応援しています。

## Astemo



Thank you for your support.

